校 内 研 修 計 画 書

１　学校名　　高山村立高山中学校

２　校長氏名　　石坂　満次

３　研修主任氏名　若林　裕子

４　平成２７年度の研修について

（１）主題　　「自他のよさを認め、自ら判断し、よりよく生きようとする生徒の育成」
～道徳の時間における話合い活動の充実を通して～

（２）成果と課題

本校では文部科学省より道徳教育総合支援事業（平成２５・２６年度実施）の委託を受け、２年間の研修を行った。その成果として、学校教育全体を通して道徳教育を行うことへの職員の理解が深まり、道徳の時間における生徒の真剣な取り組みにつながった。それを受け、昨年度は生徒の道徳性や教員の指導力のさらなる向上を目指すと共に、生徒が友達と意見交流をすることで自身の考えを深め、将来を資する道徳性を高められるように道徳の時間における話合い活動の充実を図ってきた。

昨年度の研究の成果としては以下の４点が挙げられる。１つ目は、指導方法を工夫してきたことにより１単位時間の道徳の中で、考えたり、その考えを伝えたりする活動が十分に行われるようになったこと。２つ目は、「話合いの約束」を決め、それに従って話合い活動を進めることでグループ内での話合い活動が自然と行われるようになるなど、生徒自身が道徳の時間の学び方に慣れ、スムーズに学習に取り組めるようになったこと。３つ目は、思考力の向上により自身の将来と関連付けてとらえられるようになったり、文化祭などの行事で力を合わせて成功した経験を積むことができたりするなど自身を肯定的に捉えられる生徒が増えてきたこと。４つ目は、学期を追うごとに、また学年が上がるにつれ、道徳的価値の理解が深まっていること。これは、生徒の生活経験の量が増えていることや学校教育における道徳の指導が成果を上げていることがさらなる要因となっていると考えられる。

一年間の研修を終えての継続課題としては、道徳の時間が生徒にとってさらに充実し心の成長を促すものとなるよう、今後も質的に高める努力を継続すること、より深い生徒同士の意見交流ができるような場の設定や日常生活の中での教師の言葉かけに含まれる道徳的要素を常に意識すること、道徳の時間における生徒の変容がすぐに求められるものではないように生徒アンケートの結果や学校生活の様子に反映されるにはまだまだであることなどが挙げられる。

５　平成２８年度の研修計画

（１）分野　　道徳教育

（２）主題　　「自他のよさを認め、自ら判断し、よりよく生きようとする生徒の育成」
～道徳の時間における話合い活動のさらなる充実を通して～

（３）主題設定の理由

本校では一昨年まで道徳教育総合支援事業の委託を受け、研修に取り組んだ。昨年度はその研究成果を生かし、生徒自身の考えをもとに友達と意見交流をする話合い活動の充実に取り組んできた。道徳による生徒の変容はすぐに求められるものではないため継続して取り組む必要がある。そこで今年度は、昨年度の取り組みをさらに深め、生徒の道徳性を高めていくため、同主題をテーマとして研修していくこととした。昨年度の道徳意識調査の結果から自己肯定感が学期、学年を追うごとに向上傾向にはあるが、全体的にはまだまだ十分であるとはいえない。自己肯定感を高めるために、活発な話合い活動を通して、生徒自身がお互いの考えを聞き自己の考えを深めたり、考えを級友に伝えたりすることで自分の存在意識を高めていくことが必要だと考える。昨年度までの話合い活動では、「話合いの約束」に従って生徒自身の考えを発表することはできていたが、お互いに意見を聞くことにとどまっていた。それをさらに発展させ、他人の意見から自分の意見を深めさらに活発な意見交流を行うことが自己肯定感を高めることにもつながる。活発な意見交流を行うためには、生徒自身が多様な意見を出せるような発問の工夫や場の設定が不可欠である。そこで、今年度は生徒自身の多様な考えを

引き出すための教員の指導力の向上を図ると共に、生徒同士の活発な意見交流で、道徳的価値に対する考え方を深め、自己の存在意識を高めていくことをねらいとして、道徳の時間における話合い活動のさらなる充実を副主題とし、本主題を設定した。

（４）研修内容及び方法

〇道徳の時間の授業の改善充実

・ 主発問を中心に、生徒一人一人の意見を交流する場を確保し、交流を通して道徳的価値についての理解を深めていく。
・ 補充・深化・統合のいずれを意図するかを明確にして授業を行う。
・ 年間指導計画や道徳教育全体計画別葉をもとに、道徳の授業を質的、量的に確保していく。
・ 生徒の意見交流を活発にするために、発問や授業構成の工夫を行う。
・ 効果的な資料提示や発問の精選など昨年度までの取組で得られたノウハウを今年度も生かしていく。
・ 年間指導計画を見直し、人権教育に関わる項目の吟味を行う。
・ 「はばたく群馬の指導プラン」や「私たちの道徳」「のびゆく心ファイル」（高山中）を活用する。「ぐんまの道徳」は補助資料として 4-(8)郷土愛を中心に随時利用していく。

〇全職員が協同して取り組める推進体制

・ 全体会は、各部の進捗状況や研究について共通理解を図る。
・ 地区別人権教育研究協議会の発表に向けて、指導案検討や模擬授業の検討を全職員で行っていく。
・ 実質的な活動の部会として学年部と研究開発部を設ける。特に学年部では、資料ごとに教師が出前授業をするなど、学年内の協力を仰いでいく。

〇生徒の実態把握と道徳教育の諸計画の見直し

・ 道徳意識調査の内容の見直しと精選を行い、調査による実態把握をする。
・ 授業の終わりに４点の振り返り評価を実施、その結果を記録し、学年内で共有していく。

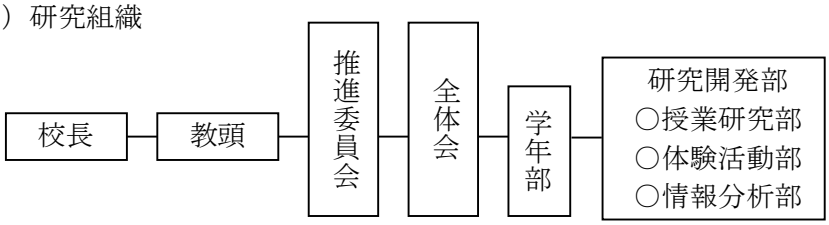
〇生徒の道徳性を高める工夫

・授業での生徒の意見をまとめ、掲示物を作成し、意識を高めていく。

〇教師の資質向上

・道徳教育の一人１授業公開を原則とし、学校教育全体で道徳教育に取り組む。

（５）研究組織



（６）年間計画

４月	・昨年度の研修の振り返りと今後の展望（全体会） ・研修組織と研修の方向性の確認（全体会）
５月	・道徳教育の全体計画及び別葉、年間指導計画の吟味（学年部）
６月	・指導主事計画訪問　・「道徳意識調査」の実施
７月	・一人一授業の開始　・道徳掲示物の作成
２学期	・指導主事要請訪問　・一人一授業の実施 ・地区別人権教育研究協議会発表
３学期	・研修の成果と課題の確認　・研究紀要作成　・研修の発表 ・次年度の研修へ向けた検討　・「道徳意識調査」の実施
年間	・道徳授業づくり